

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年1月26日(2006.1.26)

【公表番号】特表2005-536455(P2005-536455A)

【公表日】平成17年12月2日(2005.12.2)

【年通号数】公開・登録公報2005-047

【出願番号】特願2003-583337(P2003-583337)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 0 1 K	67/027	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 P	1/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/18	(2006.01)
A 6 1 P	15/00	(2006.01)
A 6 1 P	17/00	(2006.01)
A 6 1 P	19/00	(2006.01)
A 6 1 P	19/04	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 0 7 K	14/28	(2006.01)
C 0 7 K	14/525	(2006.01)
C 0 7 K	14/705	(2006.01)
C 0 7 K	16/24	(2006.01)
C 0 7 K	19/00	(2006.01)
C 1 2 Q	1/02	(2006.01)
C 1 2 Q	1/68	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)
G 0 1 N	33/50	(2006.01)
G 0 1 N	33/53	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
C 1 2 P	21/08	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	45/00	Z N A
A 0 1 K	67/027	
A 6 1 K	39/395	D
A 6 1 K	39/395	N
A 6 1 P	1/00	
A 6 1 P	1/18	
A 6 1 P	15/00	
A 6 1 P	17/00	
A 6 1 P	19/00	
A 6 1 P	19/04	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	43/00	1 0 1
A 6 1 P	43/00	1 0 5
C 0 7 K	14/28	
C 0 7 K	14/525	
C 0 7 K	14/705	

C 0 7 K	16/24
C 0 7 K	19/00
C 1 2 Q	1/02
C 1 2 Q	1/68
G 0 1 N	33/15
G 0 1 N	33/50
G 0 1 N	33/53
A 6 1 K	37/02
C 1 2 P	21/08
C 1 2 N	15/00

A
Z
Z
D
A

【手続補正書】

【提出日】平成17年11月30日(2005.11.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被験体における神経変性を処置または予防するための医薬を製造するための、T W E A Kアンタゴニストの使用。

【請求項2】

前記T W E A K関連状態は、非炎症性状態であることを特徴とする請求項1記載の使用。

【請求項3】

前記T W E A Kアンタゴニストは、T W E A Kとその細胞レセプターとの相互作用に介入する能力を有する、請求項1に記載の使用。

【請求項4】

前記T W E A Kアンタゴニストは、(a)抗T W E A K抗体；(b)抗T W E A Kレセプター抗体；または(c)T W E A Kレセプターポリペプチドフラグメントを含む、請求項1に記載の使用。

【請求項5】

前記T W E A Kアンタゴニストは、F n 1 4 - F cを包含する、請求項4に記載の使用。

【請求項6】

前記T W E A Kアンタゴニストは、抗T W E A K抗体を包含する、請求項4に記載の使用。

【請求項7】

前記T W E A Kアンタゴニストは、抗T W E A Kレセプター抗体を包含する、請求項4に記載の使用。

【請求項8】

前記抗体は、ヒト抗体またはヒト化抗体である、請求項6または請求項7に記載の使用。

【請求項9】

前記抗体がモノクローナル抗体または合成抗体である、請求項6または請求項7に記載の使用。

【請求項10】

前記抗体が全長のものである、請求項6または請求項7に記載の使用。

【請求項11】

前記抗体が、抗体フラグメント、または抗体の抗原認識配列を含む融合タンパク質である、請求項6または請求項7に記載の使用。

【請求項12】

前記医薬が、非経口経路を介して前記被験体に投与されるものである、請求項1に記載の使用。

【請求項13】

前記被験体がヒトである、請求項1に記載の使用。

【請求項14】

インビトロにおける前駆体細胞の細胞増殖または分化を調節するための方法であって、該方法は：

(i) TWEAKポリペプチドフラグメント；(ii) TWEAKレセプターポリペプチドフラグメントを含むタンパク質；または(iii) TWEAKまたはTWEAKレセプターに対する抗体を含む因子に前駆体細胞をインビトロで処理する工程を包含する、方法。

【請求項15】

前記因子が、前駆体細胞分化を促進するTWEALアンタゴニストである、請求項14に記載の方法。

【請求項16】

前記TWEAKアンタゴニストは、(a)抗TWEAK抗体；(b)抗TWEAKレセプター抗体；または(c)TWEAKレセプターポリペプチドフラグメントを含む、請求項14に記載の方法。

【請求項17】

前記TWEAKアンタゴニストが可溶性TWEAKレセプターポリペプチドフラグメントである、請求項16に記載の方法。

【請求項18】

前記TWEAKアンタゴニストがFn14-Fcである、請求項16に記載の方法。

【請求項19】

前記因子が、TWEAKアゴニストであって、該TWEAKアゴニストが前駆体細胞分化を阻害するか、および／または細胞増殖を促進する、請求項14に記載の方法。

【請求項20】

前記TWEAKアゴニストがTWEAKポリペプチドフラグメントを包含する、請求項19に記載の方法。

【請求項21】

前記TWEAKアゴニストが全長TWEAKポリペプチドを包含する、請求項19に記載の方法。

【請求項22】

前記TWEAKアゴニストが可溶性TWEAKレセプターポリペプチドフラグメントである、請求項19に記載の方法。

【請求項23】

前記TWEAKアゴニストが抗TWEAKレセプター抗体を包含する、請求項19に記載の方法。

【請求項24】

前記前駆体細胞が、(a)幹細胞；(b)全能性細胞；(c)多能性細胞；(d)複能性細胞；(e)双能性細胞；(f)組織特異的細胞；(g)胚性細胞；および(h)成体細胞からなる群より選択される、請求項14～23のいずれか1項に記載の方法。

【請求項25】

前記前駆体細胞が、未分化の脂肪細胞、筋原細胞、軟骨細胞、骨細胞または結合組織細胞である、請求項14～23のいずれか1項に記載の方法。

【請求項26】

前記方法が、前駆体細胞または組織移植療法のための医薬の製造の一部として使用される、請求項14～23のいずれか1項に記載の方法。

【請求項27】

前記前駆体細胞は、管状前駆体細胞、骨格筋前駆体細胞、前脂肪細胞または間葉系幹細胞

である、請求項 1 4 ~ 2 3 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 2 8】

前記前駆体細胞が神経幹細胞である、請求項 1 4 ~ 2 3 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 2 9】

前記前駆体細胞が、肝臓細胞型の前駆体、腎管の前駆体、心筋細胞の前駆体、肺細胞型の前駆体、皮膚細胞型の前駆体、骨格筋細胞型の前駆体、脂肪細胞の前駆体、胃腸細胞型の前駆体またはすい臓細胞型の前駆体である、請求項 1 4 ~ 2 3 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 3 0】

前記前駆体細胞が、肺細胞型の前駆体である、請求項 2 9 に記載の方法。

【請求項 3 1】

前記前駆体細胞が、卵細胞である、請求項 3 0 に記載の方法。

【請求項 3 2】

被験体において組織置換または再生を処置するための医薬の製造における、T W E A K アゴニストの使用。

【請求項 3 3】

前記 T W E A K アゴニストが、全長 T W E A K ポリペプチドを包含する、請求項 3 2 に記載の使用。

【請求項 3 4】

前記 T W E A K アゴニストが、可溶性 T W E A K ポリペプチドフラグメントを包含する、請求項 3 2 に記載の使用。

【請求項 3 5】

前記 T W E A K アゴニストが、抗 T W E A K ポリペプチドレセプター抗体を包含する、請求項 3 2 に記載の使用。

【請求項 3 6】

前記 T W E A K アゴニストが肝臓細胞型、心筋細胞型、肺細胞型、皮膚細胞型、すい臓細胞型神経細胞型の集団における増幅を生じる、請求項 3 2 に記載の使用。

【請求項 3 7】

前記医薬が、前駆体細胞を用いた組織の処置または組織移植療法において使用されるものである、請求項 3 2 に記載の使用。

【請求項 3 8】

被験体において、組織置換または再生の処置のための医薬の製造における、T W E A K アゴニストの使用。

【請求項 3 9】

前記 T W E A K アンタゴニストが、T W E A K とその細胞レセプターとの間の相互作用に介入する能力を有する、請求項 3 8 に記載の使用。

【請求項 4 0】

前記 T W E A K アンタゴニストは、(a) 抗 T W E A K 抗体；(b) 抗 T W E A K レセプター抗体；または(c) T W E A K レセプターポリペプチドフラグメントを含む、請求項 3 8 に記載の使用。

【請求項 4 1】

前記 T W E A K アンタゴニストが、前記被験体において移植された前駆体細胞の分化を生じさせる、請求項 3 8 に記載の使用。

【請求項 4 2】

被験体における心筋症の処置のための医薬の製造における、T W E A K アンタゴニストの使用。

【請求項 4 3】

前記心筋症が、拡張心筋症または鬱血性心不全である、請求項 4 2 に記載の使用。

【請求項 4 4】

被験体における肝臓状態の処置のための医薬の製造における T W E A K アンタゴニストの

使用。

【請求項 4 5】

前記肝臓状態が、肝臓上皮細胞過形成、肝臓細胞空包型性、肝臓傷害、肝臓細胞死、胆汁管過形成または肝臓線維症である、請求項4 4に記載の使用。

【請求項 4 6】

被験体における腎臓状態を処置するための医薬の製造におけるT W E A K アンタゴニストの使用。

【請求項 4 7】

前記腎臓状態が炎症腎臓状態である、請求項4 6に記載の使用。

【請求項 4 8】

前記炎症腎臓状態が多病巣性炎症である、請求項4 7に記載の使用。

【請求項 4 9】

前記腎臓状態が非炎症性腎臓状態である、請求項4 6に記載の使用。

【請求項 5 0】

前記非炎症性腎臓状態は、尿細管腎症等、尿細管過形成、糸球体囊胞、糸球体腎炎、アルポート症候群、腎臓尿細管空胞化、腎臓ヒアリン円柱、腎線維症、または炎症性肺疾患である、請求項4 9に記載の使用。

【請求項 5 1】

被験体における炎症性は以上体の処置のための医薬の製造におけるT W E A K アンタゴニストの使用。

【請求項 5 2】

前記炎症性肺症状が肉芽腫性炎症またはリンパ組織球性炎症である、請求項5 1に記載の使用。

【請求項 5 3】

前記T W E A K アンタゴニストは、(a)抗T W E A K 抗体；(b)抗T W E A K レセプター抗体；または(c)T W E A K レセプターポリペプチドフラグメントを含む、請求項4 2～5 2に記載の使用。